しまねの社会教育だより

vol.32
島根県立西部社会教育研修センター
島根県立東部社会教育研修センター

photo　出雲市　出西コミュニティセンター「秋の自然体験広場～小枝を使った工作～」

特集　地域の未来を創るカギ！ しまねの「ふるさと教育」

2021. 2月号

contents

■ ピンチをチャンスに！コロナ禍に屈しない しまねの公民館
■ 学びがチカラに!!　〔松江市　朝酌公民館　井上 美緒さん〕
■ わがまちの社会教育の実践紹介　〔益田市・隠岐の島町〕
■ つながる ひろがる“わ”　〔浜田市〕

特集 地域の未来を創るカギ！

■ しまねが目指す「ふるさと教育」

島根県では、平成17年度から地域の教育資源（ひと・もの・こと）を活かし、学校・家庭・地域が一体となって、ふるさとに誇りをもち心豊かでたくましい子どもを育むことを目的に小中学校で「ふるさと教育」を進めています。

また、地域においても、子どもや大人を対象とした「ふるさと教育」の取組が積極的に進められており、教育を通して目指す地域社会の姿について、「しまね教育魅力化ビジョン」（令和２年３月）には、次のように明記しています。

> 子どもたちは、学校だけで育まれるものではなく、多様な人々とのかかわりや、様々な経験を重ねていく中で育まれるものであり、地域とのつながりや信頼できる大人とのかかわりを通して、心豊かにたくましく成長していくことができます。
>
> 一方、地域は、子どもの成長を軸に、学校と連携・協働し学び合うことにより、住民一人一人の活躍の場を創出し活力を生み出すことができます。
>
> 「よりよい学校教育を通して、よりよい地域社会を創る」
>
> 「よりよい地域社会が、よりよい学校教育を創る」

「ふるさと教育」を着実に推進していくため、引き続き学校・地域が相互理解の上に緊密に連携し、それぞれの役割を果たしながら取り組んでいくこと、学校教育と地域社会との間に好循環を生み出す動きをつくることが大切です。

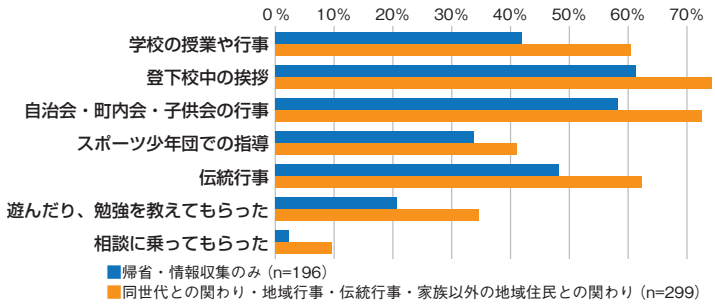
■ 取組から見える子どもの成長

これまでの取組の成果として、県教育委員会が実施した「ふるさと教育に関するアンケート（※1）」からも、小中学生の「ふるさとへの愛着や誇り」の高まりや「地域貢献意欲」が学年が上がるにつれて高まっている様子が分かります。

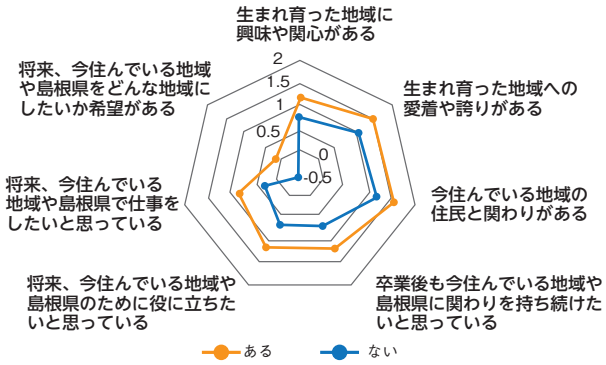
さらに、「若者世代の定住に向けた新たな視点　-移住･定住から次世代環流に向けて-」（県中山間地域研究センター令和２年３月）においては、

- 「小学生の頃に地域との関わりをもっていた人は、就職等を理由に県外に転出していた時期も帰省で家族に会うだけではなく、同世代との関わりや地域行事・伝統行事への関わりを維持していると考えられる【図１】」
- 「ふるさと教育や課題解決型学習（※2）の経験がある高校生の方が、地域やふるさとへの関心や地域貢献意欲が高い傾向にある【図２】【図３】」と報告されています。

【図１】社会人の頃の出身地との関わりの程度別にみた小学生時の地域との関わり



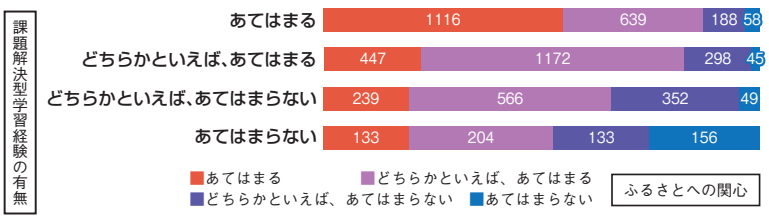
【図２】ふるさと教育の経験の有無によるふるさとへの意識（N=5880）



※各項目について「あてはまる」２点～「あてはまらない」－２点と評価し、回答数で除して算出

◆アンケートは平成 30 年度末に島根県教育委員会が県内全高校３年生を対象に実施。

【図３】課題解決型学習経験の有無によるふるさとへの関心（N=5796）



◆アンケートは平成 30 年度末に島根県教育委員会が県内高校３年生を対象に実施。

【図１】【図２】【図３】は「若者世代の定住に向けた新たな視点ー移住・定住から次世代環流に向けてー（島根県中山間地域研究センター）」より引用。【図１】は P46、【図２】は P54、【図３】は P55 より引用。

（※１）これまでの「ふるさと教育」の総合的検証と今後の「ふるさと教育」の方向性を検討するために、令和元年度末に県内小中学校教員を対象に島根県教育委員会が実施。

（※２）地域での実体験や、多様な人々との交流と対話的な学びを通して、学校で学ぶことと地域や社会でよりよく生きることをつなぎ、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力を育む学習のこと。「ふるさと教育」での学びの蓄積を活かし、高等学校にて実施されている。

しまねの「ふるさと教育」

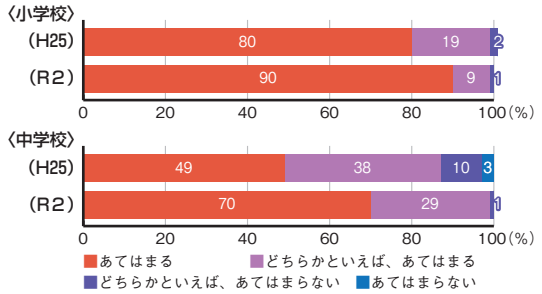
■ 取組から見える地域の姿

「ふるさと教育に関するアンケート調査（※1）」における、「地域住民や保護者など様々な人が講師やボランティアとして学習活動に関わっている」の問いについて、平成25年調査と比較して、「あてはまる」と回答した割合が、小学校は10ポイント、中学校は21ポイント上昇しています。【図4】

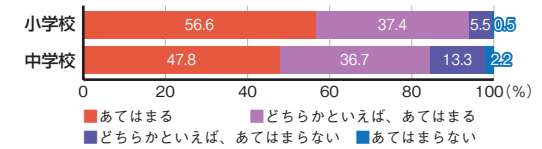
さらに、「学校と地域が目指す子ども像などについて情報交換をする機会をもっている」の問いに対して、小学校では94%、中学校では約84%が肯定的な回答でした。【図5】

このことから、学校支援体制や学校・地域・家庭の連携・協働体制が整いつつあり、地域で子どもを育んでいこうとする機運が高まっていることが分かります。

【図4】地域住民や保護者など様々な人が講師やボランティアとして学習活動に関わっている



【図5】学校と地域が、目指す子ども像などについて情報交換をする機会をもっている



【事例】大田市志学地区

志学中学校では、平成13年度より総合的な学習の時間の一環としてSST（志学最高[再考・再興]タイム）の取組が行われています。子どもたちは、地域の課題を見出し、町に出かけて聞き取りをしたり、資料を探したりしながら、解決に向けて自分に何ができるのかを考えています。そして年度末には、地域住民に向け、一人一人が取り組んだことや学んだことを発表し、地域住民から質問・アドバイス等を受けています。

この取組に対して地域住民からは、「思いに寄り添い丁寧に応えていきたい」「大人から地域のよさをどんどん発信していこう」「子どもと地域の大人とをつなげていきたい」「志学の未来を語れる子どもたちにこの地区の未来を支えてほしい」などという声があがるようになってきました。

志学未来会議

このような声も大切にしながら、志学まちづくり協議会では「志学未来会議」を立ち上げました。そのメンバーには、SSTで志学の町のことについて考えた子どもも加わり、大人と共に地域ビジョンや地域計画作成のためのワークショップを繰り返し行ってきました。

また、SSTの発表会で子どもから提案された「志学の温泉水を使った化粧水」「志学のそば粉を使った特産物」等のアイデアについて協議していくにつれ、その思いに本気で応えていこうとする大人の姿が増えてきました。子どもたちのアイデアが、地域資源を生かした特産品や志学のPRにつながるのではないかと大人たちが夢を膨らませ、動き出そうとしています。

志学地域では子どもたちの学びを支えることを契機に、大人たちの活動が、より活発になっています。

■ 活力ある地域づくりの原動力！

学校だけではなく、多くの地域住民に見守られることで子どもたちはより一層学びに向かうことができます。そのような場で育った子どもたちは、やがて地域を支えるたくましい大人として成長します。

しまねの「ふるさと教育」を通して学校と地域をつなぐことで、子どもの成長を軸として大人も子どもも共に育つ機運が高まり、そのことがひいては活力ある地域の未来につながります。

ピンチをチャンスに！コロナ禍に

新型コロナウイルス感染症の流行により、県内の公民館等においても様々な事業を中止・延期せざるを得ない状況となりました。そんな中で、「集う」「学ぶ」「結ぶ」という、公民館等が担う役割を何とか形を変えながらも果たせないものか、そう考えた公民館等は動き出しました。以下、社会教育研修センターで聞き取った公民館等の底力がうかがえる新たな試みを紹介します。

松江市　オンライン・オフラインを組み合わせた公民館職員研修

松江市では、コロナ禍でも研修の場をつくりたいという思いから、研修企画運営委員が中心となって、オンラインでの研修を実施されました。有識者から、オンライン活用法、最適なツール、リスク管理などの指導を受け、次のような研修が行われました。オンラインとオフラインが効果的に活用されています。

主　催　松江市公民館運営協議会連合会　　**対　象**　松江市公民館職員

研修名　松江市公民館職員意識向上・資質向上研修

内　容
①全公民館職員が、午前と午後に分かれて５つの公民館に集まり開催。
②講師の大分大学岡田正彦先生から出された事前課題をもとに、公民館事業の「次の一手実施計画」を考える演習を実施。５つの会場をオンラインでつないだ全体説明の後、会場ごとにファシリテーターがワークを進めた。

研修名　主事研修「今だからできる！公民館活動」

内　容
①２つの会場をオンラインでつないで実施。メイン会場を交代しながら、各会場のファシリテーターがワークを進行。
②オフラインやオンラインでのアイスブレイク、ピンチをチャンスに変えられるような発想の転換についての話し合い等を実施。

演習「コロナDEチャンス！」

主催者の思い

主事研修では、コロナ禍の中、「どのような状況で、どんな取組をしているか」を共有することで、今だからできる公民館活動を考えること、主事同士のつながりをつくることをねらいとして実施しました。

飯南町　地域資源を見直す公民館主事自主研修

主　催　飯南町公民館主事会

対　象　飯南町公民館主事

内　容
①賀田城ツアー（来島地区）
②八福神サイクリング（志々地区）
③程原入道の見学、やまめ養魚場での釣り体験（谷地区）
④木製ベンチ製作（頓原地区）
⑤瀬戸山城跡散策（赤名地区）

賀田城ツアー

八福神サイクリング

研修は、飯南町の５公民館の地区ごとに、上記の内容で行われました。

この研修を生かし、若い世代のつながりづくりをねらいとする「＋α事業」では、賀田城ツアーややまめ養魚場での釣り体験が行われました。また、釣り体験は、赤名小学校でのふるさと教育でも行われています。

ケーブルテレビでは、公民館主事が飯南町の里山文化・歴史・伝統や公民館事業を紹介する番組「飯南町里山ミニ講座」が放送されました。

主催者の思い

新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業の中止が相次ぎ、「こんなときだからこそ、これまで目を向けられなかった地域資源を見直そう」と自主研修を企画しました。地域資源を見つめ直すこと、主事同士のつながりづくりがねらいです。自館の公民館事業に生かすだけでなく、飯南町の魅力をより深く知ることにもつながりました。

屈しない しまねの公民館

美郷町　公民館×自治会×図書館で実現！　野外で読書　オープンブックカフェ

主　催 比之宮公民館、比之宮連合自治会　**対　象** 地域住民　**目　的** 地域住民が集い、学び楽しめる場をつくる。

内　容
①連合自治会に弁当や焼き芋などの提供、町立図書館に移動図書の協力を依頼することで、読書や交流ができるカフェが実現。
②屋外で実施することで感染予防と同時に、これまでキャンプで活用してきた蟠龍峡(ばんりゅうきょう)公園の魅力を違う形で堪能。
③蟠龍峡伝説を題材に小学生が作成した紙芝居を上演。

オープンブックカフェ

主催者の思い
3密を避けて楽しめるイベントはできないかと、他地域の取組をヒントに発案。ゆったりとした自然の中で、子どもから高齢者までが飲食や本を通じて楽しく交流できました。移動図書を活用したことで、初めて図書館の本を借りた人もいて、新たな本との出会いの場にもなりました。

邑南町　「学び戦隊コウミンカンジャー」がケーブルテレビに登場！

主　催 邑南町公民館連絡協議会　**対　象** 町民　**目　的** 公民館に興味を持ってもらい、公民館関係人口の拡大を図る。

内　容
①町内加入率が高いケーブルテレビを活用(約90%:R2.10現在)
②楽しく見て学べるように、戦隊ものの扮装をした。
③町内12の各公民館主事がコウミンカンジャーとなり、様々な生活課題や現代的課題に挑み、自らが経験し成長していくストーリーの中で、視聴者に学びを提供していく。
④第１話は親子を対象とし、マッチを使っての火起こしを題材とした。

ポスター

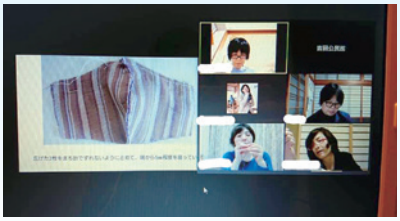
主催者の思い
何もできない状況が続くと、地域住民が「公民館離れ」してしまうのでは…と心配になり、何かできないかと考え誕生したのがコウミンカンジャーです。テレビ放送後、小学生を対象にした「リーダー研修」にも登場し、一緒に活動しました。番組を通して、視聴者の学びや気づきから家庭での行動変容や今後の公民館関係人口の拡大につながることを期待しています。

益田市　多様な他者と連携しながらオンラインの可能性を探る！

主　催 吉田公民館　**取　組** オンラインを活用して様々な講座を開催

工　夫
①遠方の講師や市内の団体などと積極的にオンラインでつないでいる。
②参加者や他館の主事を対象に、事前にオンラインの使い方や活用方法の研修を実施。
③小学校とも連携し、公民館が運動会のパブリックビューイング会場になった。

講　座　名　※一部記載
子育て世代を対象にしたマスクづくり
PTAミーティング&おしゃべり会
オンラインのファシリテーションに学ぶ
子育てワークショップ
グラレコ(グラフィックレコーディング)講座


マスクづくり

主催者の思い
コロナ禍でも、住民の皆さんに学び・交流の場を提供したいという思いから、オンラインを活用した事業を実施しています。高齢者にはハードルが高いですが、遠方の講師に講座を依頼できる、子育て・若者世代が「すきま時間」に講座に参加してくれるといったメリットがあります。手探りの部分も多いですが、時代に沿った場づくりを、リアルでもオンラインでも行っていきたいです。

コロナ渦だからできないで留まるのではなく今できることを考え出し、県内で様々な取組が行われています。今までになかった工夫がこれからの公民館等の活動に生かされていくのだと思います。まだまだ先が見通せない状況ではありますが、みんなで知恵を出し合いながら「学び」を届けていきましょう。

(県公民館連絡協議会　事務局)

※　紙面の関係で、ごく一部の事例だけを紹介させていただきました。

学びがチカラに!!

社会教育研修センターの研修で学んだことを、地域や現場での実践に活かしていらっしゃる方を紹介します

学んだことを地域へ返したい！

松江市　朝酌公民館　主事　井上　美緒 さん

「初めの２年間は見よう見まねで働いていて、公民館職員としての正解が分からなかった。地域のお役に立てているのかと不安だった。」という井上さん。３年目に同公民館に異動して来られた主任との出会いが、「私のターニングポイント」だったと明るい表情で話されました。その主任に背中を押され、**社会教育主事講習［B］、公民館等職員研修、ファシリテーター養成講座**と、次々に研修を受講されました。また、主任から、「『社会教育のプロ』として努力しなければならない。学んだことを地域に返すまでが研修。」と研修を受ける心得を学んだことで、研修で自分が得ることができる量が変わってきたそうです。

■やってみる！チャレンジする！

研修で「失敗してもいいんだよ」と言われ、**失敗をおそれず、前向きにやってみよう！**という気持ちになりました。

私が大きい声で「これがしたい！」と言うと、館長が協力してくれ、『青空健康教室』がとんとん拍子で実現できました。これは、毎年行っていた高齢者健康講話の形を変え、コロナ禍でも無理なくできる方法を考えたものです。グラウンドゴルフで集まる方を対象に、グラウンドゴルフの休憩時間を利用して実施しました。

青空健康教室

■普段から大切にしていること

参加型学習でのルールとマナーの確認『**どんどん、うんうん、しーっ**』は普段から大切にしています。職員や地域の方と**「どんどん」お話をしています。**地域の行事や団体活動におじゃまして顔を覚えてもらい、話ができるようになる方を増やしたいと思っています。そして、いろんな人の話を**否定せず、「うんうん」と受け入れて**聞いています。それぞれの立場で考えておられるので、考えを聞くのはおもしろいです。親しくなると、いろいろな話を教えてもらうようになりますが、人に知られたくないことは**「しーっ」で、自分の中にとどめておくことも大切です。**

「何も咲かない寒い日は下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く。」

これはマラソンランナーの高橋尚子さんが恩師から言われた言葉です。今年度、コロナ禍で事業ができないと思っていた時、井上さんが主任から言われました。この言葉を胸に、今年度はファシリテート力をつけたいと「ファシリテーター養成講座」に参加されました。

「研修自体がおもしろい」「経験値が上がった分だけ自然と仕事がしやすくなる」と語っておられた井上さん。今後、さらに大きな花が咲き、研修で得た学びを積極的に地域に返していかれることでしょう。

ファシリテーター養成講座

わがまちの社会教育の実践紹介

益田市　「益田版カタリ場」の挑戦　～ユタラボと共に～

益田市教育委員会　派遣社会教育主事　　大峠　直也

これは、益田市で取り組む「ライフキャリア教育」の一環で、今年度で６年目を迎えます。地域の大人と子どもが「対話」を中心に据えて１対１で対等に語り合い、「どんな大人(人)になりたいか」、生き方を考える場です。

子ども達は、ロールモデルとなる大人達から生き方や価値観について学びます。大人達にとっても人生を見つめ直し、今後の生き方を考える機会となります。そして、新たな繋がりも生まれます。これらは、益田版カタリ場の特徴的な魅力です。

今年は、ソーシャルディスタンスを保てる「益田版カタリ場すごろく」を作成しました。

また、市議会議員×高校生、営農者×小学生…等、かかわる大人がさらに広がっています。

これからも「一般社団法人豊かな暮らしラボラトリー(通称ユタラボ)」と共に、「対話」を中心に「人と人とが繋がる」ことを目標に、益田市はコロナ禍の中でもできることを考え、進んでいきます！

６月下旬に中学校で
今年度初のカタリ場を実施

ユタラボは、全員が20代の
Ｉターン者で構成

中学生×高校生、高校生×大人、小学生×高校生など、対話の年代が多様であることも、益田版カタリ場の良さです。人間関係が希薄になっている社会だからこそ、対話のできる場が学校や地域にあることは、とても素晴らしいことですね。

今後も、いろいろな人たちに「益田版カタリ場」で対話の楽しさを感じてもらい、つながりを広げたり、深めたりしてほしいです。

（益田教育事務所 社会教育スタッフ企画幹）

隠岐の島町　隠岐塾でつながる多様な大人と子どもたち

隠岐の島町　隠岐塾　塾長　　高橋　泰臣

私たちが運営する「隠岐塾」は、多様な大人と中学生の出会いの場として2019年の年末より中学生向けに自習会やイベントの企画運営を行っている団体です。「未来を自分の力で切り拓く人になろう」を理念に中学生も大人も一緒になって遊んだり、学んだりしています。また、大阪大学の学生達の協力を得て、島にはいない大学生と中学生との交流も行っています。

先日は、地域の海岸に漂着するゴミのみで火をおこす早さを競うイベント「火おこしバトル」を行いました。中学生も大人もあの手この手で火をおこす方法を考え、試行しました。結局火をつけることはできませんでしたが、全員が本気で取り組む姿が印象的でした。

今後は、多様な価値観を大切にしながら、大人と中学生が共にイベント等を企画し、より楽しんでいきたいと思います。

地域のカフェで自習会

海岸で火おこしバトル

大学生と地域の大人のワークショップから生まれ、動き始めた隠岐塾。中学生の居場所づくり、学びの場づくりから始まり、そこに多様な大人が関わることによって、回を重ねるごとに進化を遂げています。子どもたちは、学校や家庭では学べない多くのことを学び、心にゆとりが生まれているようです。多様な大人と子どもが集い、楽しみ、学び、動いて、変えていく。隠岐の島町に社会教育の新たな熱い風が吹き始めています。

(隠岐教育事務所 隠岐の島町派遣社会教育主事)

つながるひろがる“わ”

浜田市編

前号からスタートした「つながる ひろがる “わ”」。
しまね学習支援プログラム第３弾「地域魅力化プログラム※」活用の様子をお伝えしていきます。
第２回は浜田市国府公民館・有福分館の取組を紹介します。

「災害発生時に備えて…」

～国府公民館・有福分館のオリジナル・プログラム～

子どもから大人まで誰もが地域の一員であり、自分たちの地域“有福”のために「何が必要か。」「何ができるのか。」と、地域に目を向けるきっかけをつくりたいと思い、このプログラムをつくりました。

●当事者意識を持ち、思いを共有する

有福分館では、小学生の通学合宿で集まった保護者を対象に、「災害発生時に備えて…」という学習プログラムを行いました。この有福地区では、川の氾濫という災害を過去に経験しています。そこで「日常生活でできることは何か。」についてみんなで考えました。

この学習プログラムは、『地域魅力化プログラム』をもとに、地域の実態に合うように改良したものです。アイスブレイクから和やかな雰囲気のもと、ラベルワークでたくさんの意見を交流することができました。終わりには、（プログラムについて）「いいねえ！」「もっと広がればいいね。」といった声を聞くことができました。

ワークショップの様子

「地域の一員として、(準備)しておきたいことは何か？」の問いでは、「近所の方と日頃から接しておく」「地域の行事には進んで参加して交流を深める」といった意見が出てきて、地域交流の大切さを改めて感じることができました。この学習プログラムを通して、「自分事として地域とかかわる」ことの大切さを感じてもらえたのではないかと思っています。

●魅力的な地域づくりに向けて

有福分館で行った本事例は、「災害発生時に備えて」という地域課題の解決に向けたワークショップの実施です。計画に当たって、担当の公民館主事と話をしていると、「災害発生時は自分や家族の命を守ることが最優先だよね。」という意見に対して、「いざというときに家族の命を守ってくれるのは、地域住民かもしれないね。」と、話が盛り上がりました。これをこのままワークショップにすればよいということで、オリジナルのプログラムが出来上がりました。

浜田市社会教育推進計画には、「個人の幸せだけでなく、地域活動への住民の主体的参画により、活力ある魅力的な地域づくりを目指す。」という記載があります。本事例は、地域において、個人の自立と成長、住民主体のまちづくりを目指す機運を高めることにつながっています。

生涯学習課
派遣社会教育主事
小川　豊

※「地域魅力化プログラム」とは、地域づくりに主体的に参画する人づくりを支援・推進するために、参加型学習の手法を用いた学習支援プログラムです。当センターホームページから閲覧・ダウンロードできます。

東部社会教育研修センター
〒691-0074 出雲市小境町1991-2　サン･レイク2F
Tel.(0853)67-9060　Fax.(0853)69-1380
URL:https://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/
E-mail : tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター
〒697-0016 浜田市野原町1826-1　いわみーる3F
Tel.(0855)24-9344　Fax.(0855)24-9345
URL:https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/
E-mail : seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

第33号は
9月末
発行予定